

2024年度事業報告書

I. 概 況

痛風・尿酸分野に於ける我が国の研究は、慢性腎臓病や心血管障害やその他疾患への影響も明らかになるなど今や世界に冠たる水準にあるが、痛風の通院患者数は増え続けて、現在約125万人、高尿酸血症患者は約1,000万人と推定され生活環境の変化等も加わり更に増加し続けていると言われ、研究の更なる深化が求められている。

当財団は、研究者への研究助成事業や医師や医療関係者を対象とした最新情報に関する研修会の実施を通じて、痛風や尿酸に関連する疾患の医療の質の向上と発展を目指し、一般の方々や患者への啓発活動と国民保健の向上へ寄与することを基本理念としている。

一方、事業を支える財政面では、各方面からの寄付や賛助会費や資産の運用益が伸び悩み、物価上昇などの影響もあり、引き続き厳しい運営を求められている。

II. 事業の概要

1. 研究助成事業

痛風・尿酸・核酸代謝に関する臨床的或いは基礎的研究を対象として、研究成果が疾患及び病態の成因と治療や予防に有用な影響を与えるものと期待される研究を対象に助成を行った。

募集は、財団ホームページや医学関係の新聞や雑誌などへ掲載し、9月1日から10月31日に応募を受け付け、応募総数は41件であった。

選考は、理事会で選任された各専門分野の選考委員4名と財団理事3名の計7名で、応募書類を事前に審査し、その結果をもとに12月7日開催の選考委員会で審議を行い、研究助成対象者16名に総額500万円の助成を実施した。

〔選考委員〕

山中 寿 公益財団法人痛風・尿酸財団 理事長

鎌谷 直之 スタージェン医療人工知能研究所 所長、財団理事

細谷 龍男 東京慈恵会医科大学 名誉教授、財団理事

岩藤 和広 国際医療福祉大学三田病院移植外科

東京ネクスト南砂内科透析クリニック院長

小松 康宏 群馬大学名誉教授 板橋中央総合病院 副院長

川上 純 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 リウマチ・膠原病内科学分野教授

田村 直人 順天堂大学医学部 膠原病・リウマチ内科教授

[研究助成対象者]

永森 収志 東京慈恵会医科大学教授

「尿酸代謝・輸送システムにおける腸腎連関の網羅的解析」

水谷 泰彰 藤田医科大学 医学部・脳神経内科学・准教授

「プリン体代謝解析から迫るパーキンソン病におけるエネルギー代謝異常と新たな治療標的としてのヒポキサンチンの重要性」

高田 龍平 東京大学医学部附属病院教授/薬剤部長

「尿酸降下薬による核酸代謝変動に関する研究」

松本 佳則 岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科研究准教授

「チロシンリン酸化に着目した痛風発症機構の解明」

山本 毅士 大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学特任助教

「近位尿細管の尿酸再吸収亢進に着目した腎臓病進展の病態解明と治療」

藤城 緑 日本大学病院 糖尿病・肥満症治療センターセンター長

「代謝異常関連脂肪性肝疾患(MAFLD)におけるキサンチン酸化還元酵素(XOR)の役割の解明」

矢野 彰三 島根大学医学部附属病院准教授/検査部長

「慢性腎臓病におけるキサンチン酸化還元酵素の役割」

松尾 洋孝 防衛医科大学校 分子生体制御学講座・教授

「国際共同研究による痛風ゲノムワイドメタ解析で同定された 377 痛風遺伝子座の解析:日本独自のサブタイプ情報を駆使した評価」

八木 宏樹 東京大学医学部附属病院循環器内科 マルフアン症候群センター

「若年男性のマルファン症候群患者に対するフェブキソスタットの有効性(大動脈基部拡大抑制効果)に関する探索的臨床研究」

南 聡 大阪大学大学院医学系研究科 生化学・分子生物学講座 遺伝学特任助教

「リソソーム修復応答機構の解明により、尿酸結晶による疾患に対して新規治療法を開発する」

阿部 弘太郎 九州大学大学院医学研究院 循環器内科学 教授

「肺動脈性肺高血圧症に対する有効な治療が確立した時代における尿酸の意義解明」

柏崎 大奈 富山大学医学部附属病院 講師

「頸動脈プラークの慢性炎症における細胞老化と尿酸塩蓄積の解析」

福田 大受 大阪公立大学大学院医学研究科循環器内科学 教授

「遊離核酸を標的とした細胞老化に関連した生活習慣病の予防方法の開発」

廣野 守俊 和歌山県立医科大学医学部 生理学第二講座 准教授

「脳神経系における尿酸輸送に伴う電気生理学的応答とその役割」

佐藤 奈々 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻

「ヌクレオシド類による ATP および NAD⁺増加効果の解析」

関根 舞 東京薬科大学 助教

「キサンチン酸化還元酵素阻害薬がエネルギー代謝に与える影響」

2.研修事業

▫ 痛風・尿酸研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象として、9月8日(日)に神田神保町の日本教育会館にて開催し、62名の参加があった。

また、研修会の講義内容を録画しオンデマンドビデオ形式での配信を行い、47名の参加があった。

研修会のプログラムと講師は以下の通り

第1部:高尿酸血症・痛風診療の基本

座長 藤森 新先生(両国東口クリニック)

1. 痛風関節炎の診断と治療

講師 益田 郁子 先生(十条武田リハビリテーション病院リウマチ科)

2. 高尿酸血症と合併病態の治療

講師 大山 博司 先生(両国東口クリニック)

ランチョンセミナー

「循環器医が行う尿酸管理の重要性

～心パンデミックにむけての心不全地域連携を含めて～」

座長 山中 寿 先生(公益財団法人痛風・尿酸財団)

講師 瀬在 明 先生(日本大学医学部外科学系心臓血管外科学分野)

第2部:痛風・尿酸核酸領域のアップデート

座長 市田 公美 先生(JR 東日本千葉健康センター)

1. 高尿酸血症・痛風と食生活:最近のエビデンスのアップデート

講師 福内 友子 先生(帝京大学薬学部 臨床分析学研究室)

2. 尿酸と糖尿病の関連:最近のエビデンスのアップデート

講師 大内 基司 先生(千葉大学看護学研究院健康増進看護学講座)

第3部 Q&A 各講師 及び 座長

▫ 痛風協力医療機関の拡充

患者や一般の方からの問い合わせは医療機関の紹介依頼が多く、全国の109カ所の痛風協力医療機関を推薦している。しかし、協力医療機関は東京や大阪などに集中しており、地域によっては要望に応えるには十分とはいえず、研修会参加医師への呼びかけや関係者の推薦により協力医療機関を増やすよう努めている。

3.啓発事業

▫ インターネットによる啓発

財団のホームページは年間のアクセス数は100万件近くとなっており、「痛風・尿酸ニュース」の欄では痛風や尿酸についての情報などを掲載している。今後も、痛風や高尿酸血症などについての最新記事や医療機関の情報を提供していく所存である。

▫一般患者からの問い合わせへの対応(診療医療機関の紹介など)

居住地域を考慮して痛風協力医療機関を紹介し、発作時の対処方法や食事などについては専門医師に問い合わせの上でその内容を伝えている。

▫小冊子及び会報による啓発

「尿酸値をコントロールする」などの小冊子は協力医療機関を通じ配布を行っている。

会報は、財団理事・評議員や関係者などからの寄稿文や最新情報を掲載し賛助会員や協力医療機関などに配布を行っている。

4. その他

▫港区の公益財団を支援する「港区版ふるさと納税制度(団体応援寄付金)」を活用した支援を依頼しており、2024年は22名(143万円)の申込があった。

▫昨年10月にYahooネット募金サイトへの申請が承認されたので、クレジットカード・Vポイント・PayPayなどを利用した寄付も受付できるようにしていく予定である。

Ⅲ. 会員の現況(2025年3月31日現在)

個人賛助会員 : 92人

団体賛助会員 : 12団体

特別賛助会員 : 7団体

以 上